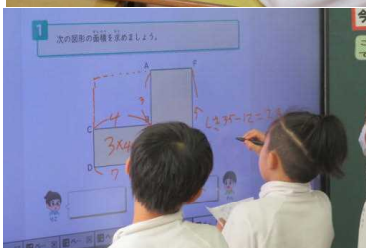


総 合 評 価

本年度も教育課題「協働の学びの質を高める」に取り組んできました。全職員が教育理念「個の生き方や考え方を尊重する」をベースに、学びづくりはもちろん、体づくりや集団づくりをはじめ様々な活動の中に対話を位置付け、ベクトルの方向を揃えて協働の学びに取り組んできたことが、成果として実感できるまでになりました。

10月末、4年生がL字型の複合図形の面積を求めているところを見せてもらいました。問題が提示されると子どもたちは次々に必要なツールを用意し、夢中になって問題を解き始めました。しばらくすると友だちとの対話が始まり、1つの解き方が見つかって他にはないかと追究が緩むどころか対話はますます盛り上がります。T君のグループもH君のグループも3つのやり方を考えて臨んだ全体共有の場面。L字型の図形を正方形や長方形に分けてその面積をたす方法の説明が、分け方の違いから2つ続いた後、T君のグループがL字を大きな長方形にして、そこから余分な長方形を引く方法を説明したときです。それを聞いたH君が「これは、おれら出なかった。これは分からなかった。」と大きな声でつぶやきました。悔しそうなのでも楽しそうな顔のH君は興味津々です。他にも同じ気持ちの子がたくさんいたのは、食い入るように説明を見つめる眼差しからも伝わってきました。終末の振り返りには、「わー楽しかった。いつもこの問題がいい。」と、またもH君の声がもれてきます。この1時間が子どもたちにとって、友と学びを深め学ぶことの楽しさを味わうことのできた授業であったことを確信しました。それと同時に、本年度「協働の学びの質を高める」ために、「友だちの考えが思わず気になる学習問題」「子どもたちのわからなさ、願いを取り入れた学習問題」等、学習問題の質に取り組んできた手ごたえを感じた授業でした。



1つの事例ではありますが、それが多くの教室で取られてきたことは、児童生徒の授業アンケートや保護者アンケートの結果からも読み取ることができます。「授業は友だちとの対話や協働の学びを大切にし、わかりやすく楽しいと思える内容になっていますか」の問いに対して、全てのブロックと保護者の回答で「そう思う」を大幅に上昇させることができました。元気アップ運動を柱とする体づくりと自治会・歌声活動を柱とする集団づくりにおいても、子どもの願いを大切にしたり、対話を取り入れたりして取り組んできた結果として、昨年を大きく上回る肯定評価を得ています。具体的に記述された声からも「自発的行動が度々できるようになった」「子どもの成長を実感する」「体験して勉強するのがいい」「個々の力を最大限生かすサポートがなされている」「学校の主旨を理解して授業が行われている」等、子どもたちの成長に触れ、本校の教育活動に理解と賛同の声を多くの方からいただくことができました。

これらの成果のベースとなったものは、個の生き方や考え方を大切にする教育理念に基づく職員の姿勢です。その方向をそろえてきた取組として、LC（ラーニング・コミュニティ）をはじめ研修システムの充実が挙げられます。LCでは毎回、研究主任の呼びかけで職員が簡単な事例を持ち寄り、教育課題への取組を語り合うことを通して研鑽

を積んできました。これは進むべきベクトルの方向を確認し、各自の主体的な研修を促すのに大きな役割を果たしてきました。あわせて、ステップ・ジャンプ期の教科担任制は、子どもたちに様々な効果をもたらしただけでなく、教職員が協働の学びを進める上でも有効な環境づくりになったと考えています。

また、本年度も学校運営協議会やパートナー会議を中心とした地域の皆様に支えていただきました。今年も本校は、全国各地からの視察が途絶えることはありませんでした。本校に他校より先駆ける特出する取組があるとするれば、その一つに学校づくりの根幹にある授業づくりを地域の皆さんと一緒に取り組んでいることがあげられると思います。「協働の学び」を進めるための小中一貫教育であり、コミュニティ・スクールです。こうしたシステムが機能し地域の皆様に支えていただき、成果につなげることができました。

研修に励みベクトルをそろえて一緒に取り組んでくれた先生方、共に子どもたちの成長を支えご尽力いただきました地域の皆様に心から感謝をし、以下に今後の展望を記します。

<次年度の展望>

アンケート調査結果からは、本校の教育理念「個の生き方や考え方を尊重する」に基づく先生方の姿勢や教育課程に多くの児童生徒・保護者が満足感・充実感を得ています。その芯となる「対話を基盤とする協働の学び」が定着してきました。これからも「個の生き方や考え方」に寄り添っているかを問い返しながらか、協働の学びにより「自律した学習者」を育てていきたいと思ひます。

- 1 本年度の教育課題は一定の成果があったと捉え、次年度は新たな教育課題の下で「協働の学び」に取り組み「自律した学習者」を育てていきます。
- 2 「協働の学び」が教職員と子どもたち双方に定着してきました。今後も「協働の学び」の成果を学力としてより実感できるように、個々の成長を見届けていきます。また、「協働の学び」をベースにしながら、児童生徒の「探究の学び」を実現する個に寄り添う学び方をさらに探っていきます。
- 3 元気アップ運動により、目標を持って運動に親しむことができるようになってきました。さらにこの運動習慣が、体づくりや健康と深くつながっていることを子どもたちが意識できるよう元気アップ運動を進めていきます。
- 4 歌声づくりと自治会活動に対話が位置づいています。今後も縦割り活動の中で、リーダーとフォロワーのつながりを深め、信頼関係が成り立つ集団の中で学ぶ良さを感じられるとともに、自分がその一員である自覚を高めていけるように進めます。
- 5 特別支援教育における個に応じた自律活動や生活単元を位置づけるとともに、インクルーシブ教育の推進を図ります。

美麻小中学校校長 中原 敏